

補助金等評価調書 平成28年度行政評価（シート1）

所管部課名	教育部 スポーツ振興課	作成日	平成28年7月31日	No.	32	
作成責任者(課長)氏名	指田 政明	作成者氏名	木村 信一	電話	654	
補助金等名	地区ふれあいスポレク大会交付金					
開始時期	<input type="checkbox"/> 昭和 <input checked="" type="checkbox"/> 平成 18年 10月 <input type="checkbox"/> 不詳					
実施根拠	法令等の名称 平成27年度武蔵村山市地区ふれあいスポレク大会交付金要綱					
補助区分	<input checked="" type="checkbox"/> 定額補助 <input type="checkbox"/> 定率補助 <input type="checkbox"/> その他 (説明)⇒ 均等割額及び自治会数割額の合算額					
補助金等の概要	対象: (交付先)	地区ふれあいスポレク大会実行委員会(4地区)				
	補助内容: (補助基準等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>均等割額434,000円</li> <li>自治会数割額は、実行委員会を構成する自治会の数に15,000円を乗じて得た額</li> </ul>				
	意図: (目的、趣旨)	地区ふれあいスポレク大会実行委員会に対し交付金を交付することにより、スポレク大会の開催を奨励し、もって市民相互の融和と親睦を深め、地域の交流と健康な心身を培うことを目的とする。				
	実施結果: (具体的成果) ※27年度実績	誰でも参加できるスポーツ・レクリエーション大会を通じて、市民相互の融和と親睦を深め、地域の交流と市民の健康、体力の増進を図ることができた。 4地区の会議合計23回、4会場(第一中学校、総合運動公園第2運動場、大南公園野球場、雷塚小学校)、総参加人数4,700人				
他市等の状況	近隣市町では、東大和市、昭島市、瑞穂町、立川市(町内運動会)が運動会を開催している。					
【評価指標】						
	指標名	単位	説明・計算式			
活動指標	① 地区ふれあいスポレク実行委員会会議	回	4地区×会議回数			
	② 地区ふれあいスポレク大会開催場所	箇所	第一中学校校庭、雷塚小学校校庭、総合公園運動場第二運動場、大南公園野球場			
成果指標	① 参加競技数	競技	4地区×競技数			
	② 参加人数	人	4地区×参加人数			
費用・成果の推移						
	平成26年度決算	平成27年度決算	平成28年度予算	備考		
交付金額(千円)	2,546	2,546	2,546			
うち一般財源	2,546	2,546	2,546			
所要人員(人)	0.18	0.18	0.18			
総コスト(千円)	4,081	4,069	4,071			
活動指標	①	24回	23回			
	②	4箇所	4箇所			
成果指標	①	48競技	48競技			
	②	4,400人	4,500人			
【交付団体等の決算・予算の状況等】 ※特定団体に交付の場合のみ記載						
単位:千円	平成26年度決算	平成27年度決算	平成28年度予算	平成27年度の補助金の使途		
収入総額(千円)	2,546	2,546	2,546	交付金額(千円)	2,546	
収入内訳	市補助金	2,546	2,546	2,546	謝礼費	130
	会費	0	0	0	消耗品費	2321
	繰越金	0	0	0	印刷製本費	41
	事業収入	0	0	0	役務費	54
	その他	0	0	0		
支出総額(千円)	2546	2546	0			
支出内訳	食糧費、交際費	6	40	各種割合		
	人件費	0	0	団体収入に占める補助金の割合	100%	
	事業経費	2,420	2,411	団体収入に占める繰越金の割合	0%	
	その他	120	95	交付金額に対する繰越金の割合	0%	
過去の評価経過	協議会・委員会の意見要旨	<input checked="" type="checkbox"/> 補助金等検討協議会(平成20年度) <input type="checkbox"/> 行政評価委員会(平成 年度) 市民相互の融和、親睦及び健康推進に寄与する事業であり、補助の必要性は高い。 しかし、自治会単位で選手を選出する種目もあり、自治会加入率の低下が進む中、参加者の確保も難しくなっている現状がある。市民が幅広く参加できるように従来の地区市民運動会からスポレク大会に改めたのであれば、実態を把握し、形式だけの大会にならないよう創意工夫を図られたい。				
	見直し等状況	自治会に加入していない市民も幅広く参加できる種目を多く取り入れ、参加の声掛けも行っているほか、4地区の会場には一般参加者用テントも設置するなど、誰もが参加できる環境整備に努めている。				

評価項目	評価	確認項目（※○・×のどちらにも該当しない場合は、「-」を選択。）
一次評価	公益性	○ ① 市民からのニーズが大きい。
		× ② 補助事業に類したサービスを提供可能な機関や団体が他にない。
		○ ③ 被交付者だけではなく、一般市民にも間接的な受益がある。
	効率性	× ① 補助金の内容や補助額等について、過去5年以内に見直しを行っている。
		○ ② 補助額、実施手法等について、過去に他市等との比較を行った。
		× ③ 補助期間(終期)を設定している、又は設定の予定がある。
		(○の場合)⇒終期 平成 年 月
		○ ④ 必要最小限の補助であり、縮減や所得制限導入の余地はない。
		○ ⑤ 補助額、補助率等の算定根拠を説明できる。
		(○の場合)⇒算定根拠 (説明) 4地区の実行委員会に対し、均等割額434,000円及び自治会数割額(実行委員会を構成する自治会の数に15,000円を乗じて得た額)を補助する。
有効性	○ ① 補助基準が明確である。	
	× ② 補助金の成果について、具体的な数値目標等を設定している。	
	(○の場合)⇒目標内容 (説明)	
適格性	○ ③ 補助金の交付により、期待された効果が得られた。	
	○ ① 繰越額が補助金額を上回っていない。	
	× ② 補助金に依存することなく、被交付者が自主財源の確保に努めている。	
	(○の場合)⇒取組内容 (説明)	
	○ ③ 決算書だけではなく、帳簿や領収書等で使途の確認ができる。	
その他	- ④ 市税の滞納がないなど、被交付者が市民としての責務を果たしている。	
	○ ⑤ 交際費、慶弔費、飲食費、懇親会費の経費に補助金を充てていない。	
	× ① 補助の目的、内容及び実施時期に緊急性又は優先度の高さが認められる。	
	(○の場合)⇒その理由 (説明)	
	○ ② 成果向上のため、被交付者自らが活動内容の検証、改善等を行っている。	
二次評価	(○の場合)⇒改善内容等 (説明) 各地区実行委員会に担当職員を配置し、事業運営、企画内容等の改善に向けた調整を行っている(競技種目、補助金の使途など)。	
	○ ③ 補助金に、市民との協働や市民の主体的な取組を促進する作用がある。	
	○ ④ 迂回助成(被交付団体から他団体への、補助金を原資とした助成)は行われていない。	
	【総合的意見(今後の方向性)】 <input type="checkbox"/> 拡 充 <input checked="" type="checkbox"/> 継 続 <input type="checkbox"/> 一部見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止・休止 (説明) ※「×」とした項目に言及しながら、所管課としての意見を具体的に記載ください。 地区ふれあいスポレク大会の企画運営は自治会長、スポーツ推進委員、スポーツ協力員等で構成される実行委員会が行っており、高齢化が進む中で、各地区ともにレクリエーション要素を多く取り入れた競技種目を採用するなど、子供から高齢者まで多くの世代がスポーツ・レクリエーションを通じて、地域の親睦を深め、健康増進や体力向上が図れるよう創意工夫している。 また、本市は、平成26年度にスポーツ都市宣言を行い、スポーツを通じて市民が健康的な生活を営むことにより賑わいと活力あるまちづくりを進めていることから、今後も引き続き補助を継続していく必要があると考える。 なお、一部の自治会から自治会数割額の増額要望が挙げられている。	
行政評価委員会意見	【総合的意見(今後の方向性)】 <input type="checkbox"/> 拡 充 <input type="checkbox"/> 継 続 <input type="checkbox"/> 一部見直し <input checked="" type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止・休止 (説明) 本交付金は、地区ふれあいスポレク大会実行委員会に対し交付金を交付するものであり、スポレク大会の開催を奨励することにより市民相互の融和と親睦を深め、地域交流と健康増進を図る上で一定の意義があるといえる。 しかしながら、自治会加入率の低下や高齢化に伴い、各地区における参加者の確保が難しいことから、スポレク大会の参加者数は、本市人口の1割にも満たないものであり、費用対効果は低いものといえる。 よって、今後は、開催会場を一つに統合するなど、効率的かつ効果的に事業を実施できるよう、事業内容を抜本的に見直す必要があり、また、スポーツに関する事業や補助金が多岐に渡っている現状を踏まえ、本補助金のみならず、スポーツ関係補助金全体の整理合理化を進めていくことが肝要である。	
	地区ふれあいスポレク大会は、市民の地域交流と健康増進を図る上で一定の意義が認められる。 他方、高齢化等を原因として参加者の確保が難しくなっている地区もあることから、開催会場の統合や、地区の特性に合わせて地域交流と健康増進のどちらかに重点を置いた事業にするなど、より効果的な事業内容にするとともに、本交付金の在り方について、抜本的に見直していくことが肝要である。	